

交流学習報告書(1) 技術交流会(1)

新里喜信

1. 交流課題

(1) 青年部活動とパヤオ漁業

2. 目的

パヤオ漁業の先進地である伊良部町漁協青年部では、パヤオ周辺に蛸集するマグロ、カツオ等を漁獲対象とする漁具・漁法の改良で年々、その漁獲実績をあげてきている(昭和63年度は712t)。さらに、漁獲後の鮮度保持では即役、血抜きを徹底して品質向上をはかり、市場では高価格で取引きされるようになった。そこで、パヤオ周辺での漁法技術及び鮮度保持等を情報交換し、交流学习することで安定した水揚げ収入が図られることを目的とする。

3. 場 所

伊良部町漁業協同組合

4. 日 程

平成2年5月24日～26日

5. 参加者

氏 名	所 属
具志堅 利 夫	沖 縄 市 漁 業 協 同 組 合
古 謝 広 昭	石 川 市 漁 業 協 同 組 合
仲 道 邦 夫	久 米 島 漁 業 協 同 組 合

6. 交流地の概要

伊良部町は、沖縄本島から南へ約350kmの宮古諸島にあり、伊良部島と下地島からなる離島で人口がおおよそ8,500人(平成元年9月1日現在)の町である。漁業ではカツオ・マグロ釣、曳縄漁業、追込網漁業等が盛んで(平成元年1,318トン)その殆んどはパヤオ(712トン)漁場からの水揚げである。

7. 交流状況

パヤオ漁業の先進地である伊良部町漁業協同組合でパヤオ周辺の曳縄漁業及び鮮度保持を中心に同漁協青年部と交流学习を深めた。

交流第1日目は参加者及び同漁協青年部からそれぞれ自己紹介のあと日程打合せした。早速同漁協青年部(国頭部長)から伊良部におけるパヤオ漁業の経緯と現況について説明、漁具漁法の

特徴等を学習した後、参加者からの情報交換があった。2日目は、流し釣、曳縄の乗船実習のため午前2時30分起床、午前3時にそれぞれ美吉丸、長副丸に乗船してパヤオ漁場へ向う。漁場まで約1時間40分、東及び南東の風が11m、漁場では波浪も高く悪条件にもかかわらず2時間余り操業して午前11時30分に帰港した。

漁獲実績

船名	魚種	単価	数量
長福丸	マグロ(トンボ)	900円	2.6kg
	シーラ	150円	1.8kg
美吉丸	カツオ(大)	300円	3.9kg
	カツオ(小)	300円	3.8kg
	シビ	500円	2.4kg
	シーラ	150円	4.1kg
計			18.6kg

8. 所感

パヤオ漁場域での漁法技術は地域によって特徴があり、それぞれ独自で工夫を凝らして漁獲実績を挙げているようである。伊良部町漁協青年部では、漁具改良をパヤオグループ活動で取組み、研究会や学習会を通してジャンボ曳縄漁法やマグロ流し釣漁法を改良してきた。特に流し釣漁法で用いる餌(キビナゴ)と散水装置に相当な工夫がみられた。散水装置の場合、通常一般的に用いられているそれと構造上何ら変らない装置であるが、散水升(くち)の部分に工夫がなされ、水面に散水した状態が露玉のようにはね返り、小魚が群れをなし飛び躍っている様に映り、餌と錯覚してシビ、カツオ等の魚群が集まってくるようであると説明した。

今回、技術交流会に参加して参加者から、不段あまり漁業者同志で見せたがらない改良点、大事な部分を實際目にし学習できた事を大きな収穫だったと感激して、技術交流会を終了した。